



母乳育児支援通信



～「赤ちゃんにやさしい病院」をめざして～

新しい年が始まりました。今年も、私たちは赤ちゃんにやさしい病院を目指して活動してまいります。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今号は、担当薬剤師から、母乳とくすりの関係についてお伝えします！

～母乳育児と薬について～

本院薬剤室主任薬剤師 鈴木さとみ



授乳中でも体調が悪くなってしまうことはありますが、薬を飲むと赤ちゃんに影響が出るのでは？と心配になりますよね。



母乳はお母さんの血液からおっぱいの乳腺で作られています。
お母さんの体に入った薬は血液と一緒に乳腺に届き、母乳中にも薬の成分は混ざりますが、その量は非常に少ないことが知られています。
日本では赤ちゃんへの影響を心配しすぎて、簡単に母乳をやめてしまう傾向があります。その理由としては2つ。
1つ目は、薬を飲んでいると母乳をあげられない、という習慣が私たちに根付いていること。2つ目は、ほとんどのお薬の説明書（添付文書）には「授乳中止」や「安全性が確立していない」「治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与する」と記載されており、アドバイスする医師・薬剤師もそのように説明してきたからです。この説明書も科学的な裏付けに乏しいため、現代には合わないことが指摘されていますが、説明書を作る製薬会社は、薬を発売するときには妊婦や授乳婦へのデータはもちろんなく、「大丈夫」と記載してしまうと何かあったときの責任が問われるため、今でもこのような状態になっています。

大事なのは『母乳中に薬が移行すること』ではなく、『母乳中の薬により赤ちゃんに有害な影響が起こるか』を考えることです。





授乳と薬に関する情報源は？



当院薬剤部では、添付文書の他に書籍も利用して、情報提供を行っています。



他にも、インターネットでは、妊娠と薬情報センターHP (※)、アメリカ国立衛生研究所 Lactmed HP 等を利用して、安全な薬物治療ができるように情報提供しています。



※「ママのためのお薬情報」ページもあるので、お母さんが自分で調べることも出来ます。詳しくは、医師・薬剤師にお尋ねください。

本当に赤ちゃんに影響が出てしまう薬とは・・・？

OHIV 感染症の治療に使用される薬

お母さんが HIV 陽性の場合、母乳によって赤ちゃんが HIV に感染する危険性があるため、母子感染予防の観点で母乳育児は避けるべきです。

○抗がん剤・肝炎治療剤

正常な細胞には毒性を示してしまいます。赤ちゃんに影響が出る可能性があるため、授乳は原則禁止です。

○放射性医薬品

赤ちゃんが被ばくしてしまいますので、効果がなくなるまで中止しましょう。

○医療用麻薬

お母さんへは痛みを取る大事な薬ですが、赤ちゃんへの影響が不明です。

○アミオダロン® (抗不整脈薬)

ヨウ素が高濃度含有されており、母乳移行率が他の薬剤よりも多いことが知られています。

上記は中止した方がいい薬剤の一部です。記載していない薬でも、服用をやめたほうが良いものもあります。赤ちゃんに影響があるからではなく、母乳が出にくくなるのでやめた方が良い薬もあります。

ただし、多くの薬剤は服用していても授乳可能ですので、まずは医師・薬剤師にご相談ください。





Q

風邪薬は飲んでもいい？



例えば、赤ちゃんが風邪を引いた時に使われる薬（アスピリン[®]、カロナール[®]、ムコダイン[®]等）は母乳中に移行したとしても問題はありません。

また、母乳中にお母さんがかかった風邪に対する抗体が移行するため、赤ちゃんを守ってくれます。

ただし、「PL 顆粒[®]」「SG 顆粒[®]」にはカフェインが含まれています。母乳へ移行したカフェインを赤ちゃんが飲むことで興奮、不眠が続く可能性があるため、症状の観察が必要です。同様の理由でコーヒーやお茶をたくさん飲むことは控えましょう。



A



Q

インフルエンザのときに母乳を続けても大丈夫？



インフルエンザのときも、母乳からインフルエンザが感染することはありません。つば、くしゃみのしぶき等による飛沫感染で感染するので、マスクをして、手洗いを十分に行うことが重要です。

抗インフルエンザ薬には、タミフル[®]、イナビル[®]、リレンザ[®]があります。タミフルの場合、お母さんが内服した量の約 0.5% を母乳から赤ちゃんが飲みますが、影響が出ないと考えられている量のため服用しても問題ありません。イナビル[®]、リレンザ[®]は吸入薬のため母乳に移行する量はタミフル[®]より少ないと考えられます。

お母さんが元気にならないと、赤ちゃんは不安になります。はやく、しっかり治すことを目指しましょう。



A

《注意》

授乳中に飲める薬と、妊娠中に飲める薬は違います。

ロキソニン[®] 等の痛み止めは出産後、会陰切開した場合等に処方されます。

しかし妊娠末期（28 週以降）では、一部の痛み止めの内服や湿布は、母体へは出産を遅くしたり、羊水が少なくなったり、胎児には動脈管収縮が起きてしまうため、妊娠後期は禁忌となっています。

病院で処方される薬だけではなく、市販されている痛み止め、湿布も同様です。必ず確認してから使用しましょう。

母乳育児支援研修会を開催しました！

テーマ「行政が支える母乳育児～愛着、健康づくりのスタートは母乳から～」

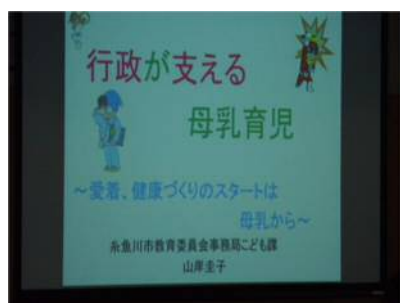
と き：平成 28 年 11 月 22 日（火） / 場 所：大崎市民病院本院

講 師：新潟県糸魚川市 保健師 山岸 圭子様

全市を挙げて母乳育児支援に取り組んでいる活動の実例を学びながら、どのような思いを持って行政側から母乳育児を支援しているか講演いただきました。

参加者は院内職員だけでなく、大崎市以外の保健師さん方も参加されました。

地道に母乳育児支援を続けている様子がよく分かる講演会でした。



お知らせ

○当院主催 母乳育児支援ワークショップ

と き：平成 29 年 3 月 25 日（土） / 場所：大崎市民病院本院

○東北母乳の会主催 母乳育児支援講演会

と き：平成 29 年 5 月 13 日（土） / 場所 山形市立病院 済生館

♡ みんなで母乳育児 ♡

☆母乳育児支援を進めるチーム☆ (H28 年度メンバーです)

チーフ	工藤 充哉	(第三小児科科長)		
チーム員	豊田 文爾	(第一歯科口腔外科科長)	柴田 真由美	(本院 4 階南病棟看護師)
	嶋海 僚彦	(第一小児科科長)	阿部 明子	(本院外来看護師)
	岩間 憲之	(第一婦人科副科長)	鈴木 さとみ	(薬剤室主任薬剤師)
	村上 紀代恵	(本院 4 階東病棟看護師長)	千葉 亜希子	(放射線室副技師長)
	二瓶 育枝	(本院 4 階南病棟看護師長)	大崎 美千子	(臨床検査室主任臨床検査技師)
	伊藤 洋子	(本院 4 階東病棟副看護師長)	中島 朝陽	(栄養管理室管理栄養士)
	佐藤 祥子	(本院 4 階東病棟助産師)	荒井 美加紗	(リハビリテーション室作業療法士)
	荒井 美子	(本院 4 階東病棟主任助産師)	岩崎 彩	(経営企画課経営戦略係長)
	三須 愛子	(本院 4 階東病棟助産師)		
	三浦 たつえ	(本院 4 階南病棟副看護師長)	事務局 情報管理課	
	青木 瞳	(本院 4 階南病棟副看護師長)	中川 道之, 佐藤 良紀, 鈴木 俊彦, 日向 優佳	
	佐藤 恵	(本院 4 階南病棟主任看護師)		

編集後記

平成 28 年度も、母乳育児支援にご協力いただきありがとうございました。
来年度は、よりみなさんの身近に、「赤ちゃんにやさしい病院」を目指す意義を感じていただけるように活動する予定です。
母乳育児を支援するメンバーは熱意を持っており引き続きご協力をお願いいたします。
(事務局：情報管理課 日向 内線 3919)